



## 栗田部と蓬萊祀

### 地域に根付く蓬萊祀

雪で山車も曳き手も真っ白になる時期の、2月11日に栗田部（あわたべ）の「蓬萊祀（おらいし）」が毎年執り行われています。ここ越前市栗田部町は、かつて近隣の中心地として栄え、県社「岡太（おかふと）神社」をはじめとして多くの寺社が町並みの中に溶け込み、自然豊かな「花筐（かきょう）公園」では春の桜・秋のもみじが楽しめます。

蓬萊祀は岡太神社の神事のひとつで、地元では継体天皇の即位を祝って始められたとされています。今の蓬萊祀は、五穀成就・天下



泰平を願い、町の子供からお年寄りまで大勢の人が山車を曳いて町を練り歩きます。この様に地域の人たちが楽しみながら、遠い昔から伝わる蓬萊祀を受け継いでいます。長い歴史と特色ある蓬萊祀は、平成17年に国選択無形民俗文化財に選ばれ、同年に蓬萊祀保存会を設立して継承・発展に努めています。

## 蓬萊祀のはじまり

### 古くから伝わる蓬萊祀の3つの起源説

#### Ⅱ 継体天皇の即位説

今から1500年前の継体天皇の即位と、蓬萊祀はどのようなつながりがあるのでしょうか。

継体天皇は幼い頃に父が亡くなり、母の故郷の越前で育てられました。お住まいがあったとされる各地に伝説が生まれ、ここ栗田部にも先人達がとても大切にしている伝説が残っています。



◆ 岡太神社境内にある石碑

日本の国家が芽生え始めた頃、第25代天皇が崩御し臣下が協議して越前の「男大迹皇子（おおとのおうじ）」を次の天皇にお迎えしたいと、使者が栗田部にやってきました。なお男大迹皇子とは継体天皇の幼名です。

皇子は栗田部を出発して樟葉宮（くずはのみや）（枚方市樟葉）で第26代天皇に即位（507年）されました。皇子への崇敬の念が強い栗田部の村人が、到着された旧暦正月13日（現在の2月13日）を祝う日として始められたのが「蓬萊祀」とされます。新しい天皇が即位した年の大嘗祭で造られる標山と、蓬萊祀の山車の共通点も新たに分かりました。

#### Ⅱ 蓬萊山（ほうらいさん）説

中国の不老長寿の伝説より、岡太神社裏山の三里山を蓬萊山に見立て、山車を蓬萊山のように飾り立てて曳きまわしたと言われています。

#### Ⅱ 耒耜（らいし）説

中国の歳時記「月令」では立春の吉日に、天子が古代中国の農具「耒耜（らいし）」で豊穡なめぐみを願い、大地を耕す農耕始めの儀式を行っていました。この渡来の儀式を継体天皇が栗田部の田で行っていたとする説があります。

蓬萊祀の葉の旧字は「萊」です。古い文献は蓬萊祀は「萊祀」と記されています。萊祀に「御」「蓬」の接頭語が付いて、その後に「蓬」を「お」と発音して「おらいし」に変化したと考えられます。